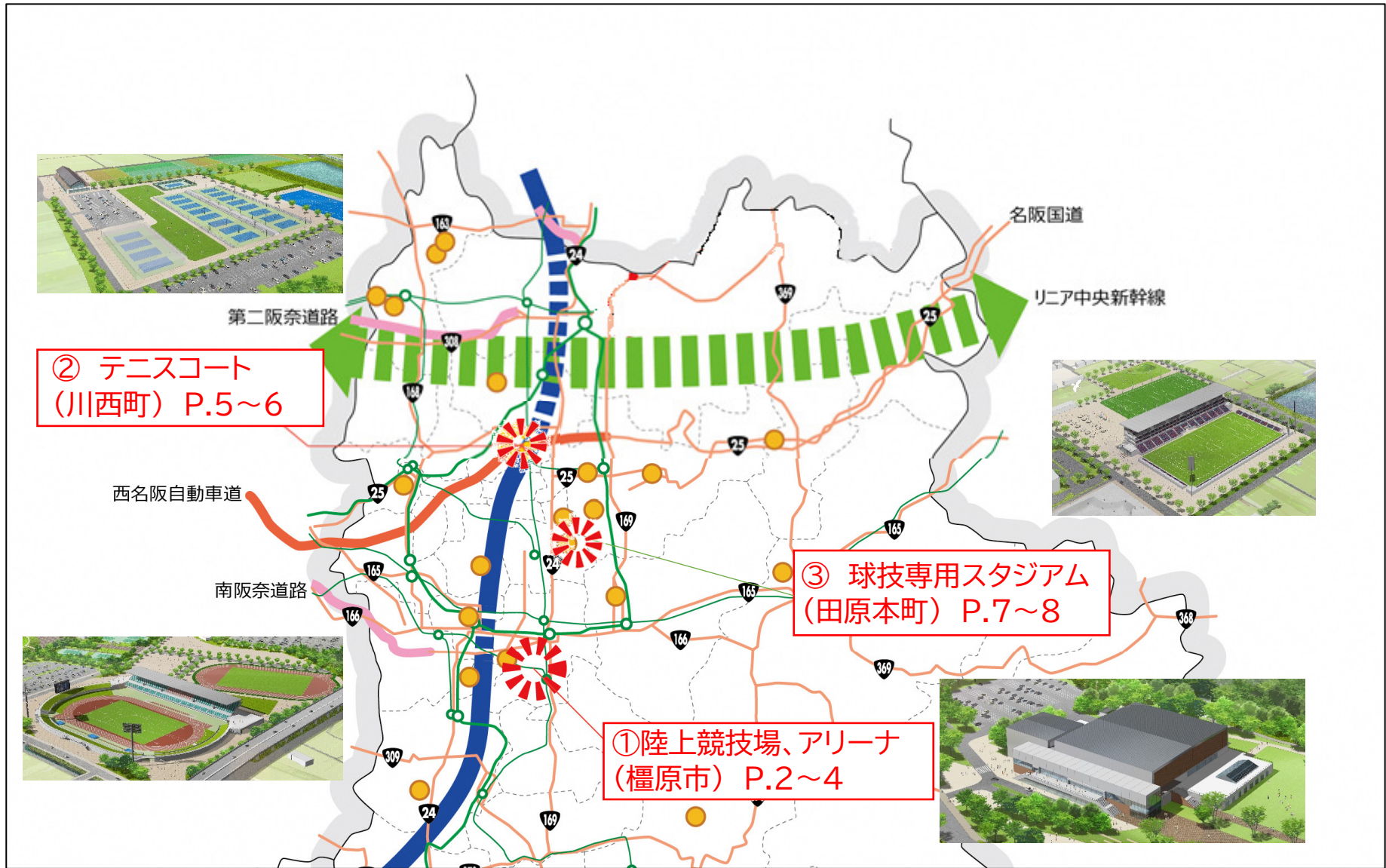
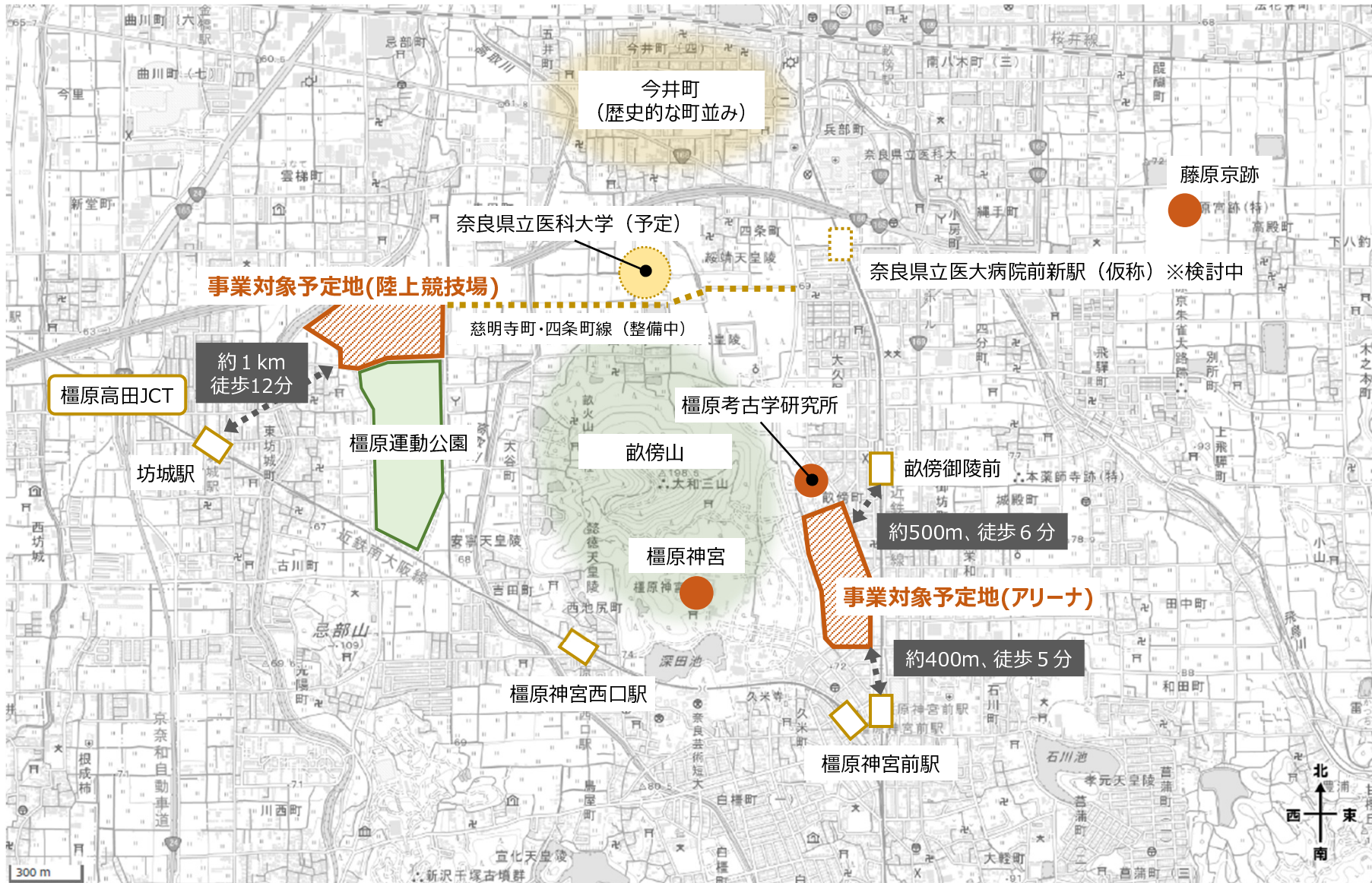


新設予定の奈良県スポーツ施設配置図



周辺図 (① 橿原公苑・橿原運動公園)



<整備イメージ>

①-1 陸上競技場 機能・規模

- 大規模スポーツイベントのみならず、日常使いやすい競技場を設計
- サブトラックを開放し、日常運動の拠点

<必要なスペック(日本陸連公認の必要条件で設定)>

●第1種陸上競技場・・・400mトラック9レーン

- ・ 観客席：15,000席以上(うちメインスタンド固定席7,000席、他は芝生席等)
- ・ 付帯施設：雨天走路、大型ビジョン、夜間照明(1,500ルクス以上)、
用器具庫(2カ所以上、合計500㎡)、医務室、ドーピング検査室、ウェイトトレーニング室、VIPルーム、
浴場またはシャワー室(男女各2カ所以上)、更衣室(300人以上)、記者席等

●第3種陸上競技場(サブトラック)・・・400mトラック8レーン

- ・ 観客席：固定席なし(観覧スペース相当程度)
 - ・ 付帯施設：夜間照明(基準なし)、用具倉庫
- ※日本陸連公認要件の必要条件で設定



(イメージ)

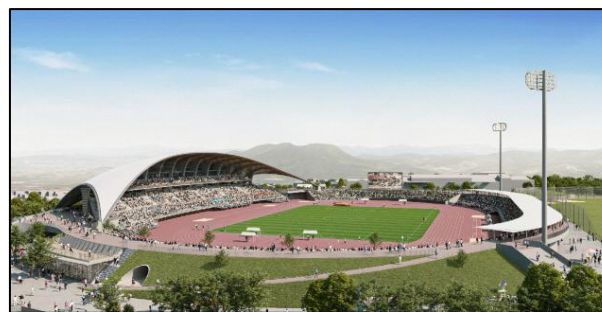
先催県の事例

彦根総合運動公園 陸上競技場(新設)【R7年滋賀県国体】



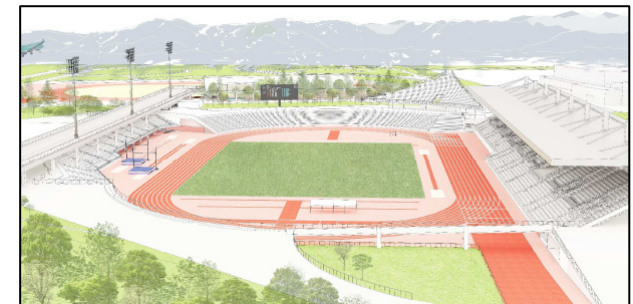
観客席:15,000席(メインスタンド7,000人)
付帯施設:サブトラック、管理諸室、器具庫、
室内走路、ウェイトトレーニング室
事業費:約100億円(R4)

宮崎県新陸上競技場(新設)【R9年宮崎県国体】



観客席:15,000席(メインスタンド7,000人)
付帯施設:サブトラック、医科学トレーニング室
競技用車椅子等保管場所、シャワー室
事業費:約150億円(R6)

長野県松本平広域公園 陸上競技場(新設)【R10年長野県国体】



観客席:20,000席(メインスタンド7,000人)
付帯施設:サブトラック、雨天走路、トレーニング室
ウォームアップ室、記者室、来賓室
事業費:約100億円(R7)